

派遣先所属 宮城県 気仙沼地方振興事務所  
氏 名 山岸 謙介 (やまぎし けんすけ)  
派遣期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の気仙沼地方振興事務所 水産漁港部は、気仙沼市及び南三陸町を管轄地域とし、同地域での漁港の維持管理・保全、漁業の許可、栽培漁業等の振興、水産業協同組合の指導育成、漁港及び漁場の整備並びに漁港区域内海岸保全施設の整備等、幅広い業務を担っており、職員数も50人を超える大きな部署となっております。

同地域は、東日本大震災の津波により甚大な被害を受け、10年経った今でも至る所に、その爪跡が残っており、現在、水産漁港部では、人命と街を守るため防潮堤の整備を進めている状況です。

その中で、私は用地班として、同地域での防潮堤整備に伴う用地関連業務を行っており、主な業務としては、防潮堤の建設予定地である土地の所有者に対して、防潮堤整備に係る工事の説明を行うと共に、土地の買収に係る用地交渉や土地の境界立ち会い等を行っております。

その他に、防潮堤整備に伴う建物等の調査を行っております。これは、防潮堤の整備の際に起こる振動等によって、建物等に被害があった場合に、補償金を支払う制度があり、そのために、工事が始まる前と後とで建物の調査をし、工事による影響を確認するものです。

建物の調査のお願いのため、土地の所有者の御自宅や会社を訪問する機会が多くありますが、津波の被害から人命や街を守るためならという思いの方が多く、防潮堤工事や建物の調査には、御協力をいただいている状況です。

また、他には、漁港の物揚場設置工事により、養殖業を含めて漁業が制限されることとなるため、漁業補償に係る業務を進めております。

この漁業補償は、これまで気仙沼地方振興事務所でも事例がなかったことから、漁業協同組合、土木事務所及び国道交通省から補償の考え方、補償設計書の作成、事務の進め方など確認をしながら進めている状況です。

私は、用地業務に携わるのが始めてだった為、最初は分からない事が多くありましたが、宮城県職員の方に、優しく丁寧に御指導いただき、業務もスムーズに取り組むことができました。

また、班内には、私を含めて4名の派遣職員（神奈川県、鹿児島県）がおり、分からないことがあれば、皆で協力しながら業務を進めるなど、とても良い雰囲気の中で、業務に携わらせていただいております。

【土地の境界立会の様子】



【伊里前漁港伊里前地区の防潮堤】



## 2 被災地の復旧・復興の状況

私の住んでいる地域は、気仙沼市の鹿折という地区ですが、この地区は、東日本大震災の際に、津波とそれに伴う火災により、甚大な被害があった場所です。

現在は、防潮堤を整備した上で、盛土し嵩上げをすることで、復興住宅の建設や商店も段々と戻ってきており、賑わいを取り戻しつつありますが、やはり空き地も目立つというのが実情です。

当時から同地区に暮らしている方々の話では、活気は段々戻ってきているものの、震災後この地を離れた方も多く、知り合いも減り、昔のような人付き合いも薄れてしまったとの声もありました。

一方で、気仙沼に新たにきた方々を温かく迎え入れてくれる風土があり、私自身も様々な所で温かい言葉や感謝の言葉をいただきました。新天地で誰も知り合いがいない中で、気仙沼の方々の優しさに触れ、より一層、被災地のために頑張ろうと強く感じさせられました。

【鹿折地区（気仙沼市復興祈念公園より撮影）】



### 3 被災地へ派遣となって感じたこと

地権者の方々の御自宅を訪問する中で、東日本大震災の被災体験のお話を聞かせていただく機会が多くありました。御自身が辛く、悲しい経験をしているにもかかわらず、前向きに日々の生活を送り、当時の体験を語っていただく姿には、逆に私自身が元気をもらいました。

今年、東日本大震災から10年という節目の年となりましたが、私もこの気仙沼に住み、微力ではありますが復興に携わっている者として、東日本大震災を風化させることなく、今後、埼玉に帰った後でも、被災地の事を思い、被災地のためにできることを探し続けていこうと思います。

【気仙沼大島（亀山展望台から撮影）】



※NHK 朝ドラの舞台となった島

【気仙沼市波路上岩井崎 龍の松】



※津波に耐え、奇跡的に残った龍の形をした松